

CLT 建築の接合部：欧州のアプローチ

日時 2017年11月14日（火）9時～18時

場所 東京大学弥生講堂アネックス
セイホクギャラリー



木質構造は、過去10年間で多大な進歩を遂げました。それは材料の本質的な性質（優れた構造性能や断熱性、作業性、柔軟な使用、そして持続可能性）が向上したことはもちろん、**接合部の技術革新**が重要な一翼を担っています。欧州ではこうした背景から、CLT建築は疑いようもなく繁栄してきました。現在の日本では、2016年に公布されたCLT関連告示によってCLTを用いた建築物の計画は加速しています。このセミナーでは、欧州と北米で最も一般的で主要な**CLT建築の接合部**の設計を、日本の許容応力度計算に沿って紹介します。また典型的なCLT構造における遮音、防湿、気密性についてもお話しします。

スピーカー

青木謙治

東京大学大学院農学生命科学研究科生物材料科学専攻木質材料学研究室准教授。

鈴木圭

博士（農学）。公益財団法人日本住宅・木材技術センター技術研究部と木構造振興（株）を併任。木質構造とりわけCLTの接合部に関して実験の実施や日本国内および海外事例について調査研究を進める。

主催 ROTHOBLAAS

イタリア・アルプス地域を拠点とする。

木質構造の高度な建設資材を開発・提供。

CLT協会会員。

後援 一般社団法人日本CLT協会

プログラム

	8.30-8.55 受付
09.00	イントロダクション／青木先生
09.30	日本における CLT 事情と関連告示について、欧州での CLT 事例
09.30	CLT を使った建築物の構造計算ルート／鈴木先生
10.30	日本では、CLT パネル告示に基づく CLT パネル工法の他に、軸組と併用した工法も存在する。それぞれの構造計算ルートを解説する。 CLT パネル告示に基づくルート 1、2、3 及び限界耐力設計法の制限と設計方法の概略を解説する。
	10.30-10.45 休憩 (ROTHOBLAAS 社についてのプレゼンテーション)
10.45	ビスの評価方法／鈴木先生
11.30	スクリュー HBS、TBS、VGS、VGZ 基準から日本基準への読みかえ ヨーロッパでは計算による評価が基本だが、日本では実験が重要視されている。実験による評価と計算による評価との違い、ユーロコードと日本の学会基準式の違いについて解説する。 HBS, TBS, VGS, VGZ の試験概要と試験結果の解説を行う。
11.30	質疑応答
12.00	12.00-13.30 昼食 (お弁当を用意しています)
13.30	CLT 接合部の設計について／鈴木先生
15.00	ヨーロッパ・カナダ等における一般的な接合方法について解説する。 日本の構造計算ルートに基づく接合部設計の特徴について解説する。 上記の解説を踏まえ、HBS, TBS, VGS, VG について日本の構造計算ルート 1 で適用させる場合の仕様を示す。
15.00	日本での長ビスの使用事例／銘建工業
15.45	構造計算の仕方・施工時のポイント
	15.45-16.00 休憩
16.00	半ネジ・全ネジでのスギ CLT でのビス打ち体験
16.30	(お使いのインパクト/スクリュードライバーがあればお持ちください)
16.30	革新的な接合／ROTHOBLAAS 山田
17.30	CLT 専用接合合金物 X-RAD について
17.30	質疑応答
18.00	



参加費

CLT 協会員：5000 円 / 非会員：7000 円 / 学生：無料

※当日会場で申し受けます

※設計・構造設計従事者で CLT の基礎知識があり、欧州の革新システムへの好奇心があること



ROTHOBLAAS は、イタリア・アルプス地域を拠点とする多国籍企業、木質構造に高度な技術ソリューションを開発・提供し続けてきました。(一財)ベターリビングにて、平成 29 年 11 月構造用木ネジ接合部の許容せん断耐力、許容引抜耐力等の評定取得予定。

申込み先：motoko.yamada@rothoblaas.com

下記項目をご記入の上、上記メールアドレスまでお申し込み下さい。

- ・ ご所属 (御社名/部署名)
- ・ CLT 協会会員/非会員
- ・ 氏名
- ・ 電話
- ・ Email

申込み締切りは 11 月 7 日。

定員になり次第締め切らせて頂きます。

お問合せ：ロートブラース 山田